

名古屋港金城ふ頭における 完成自動車取扱機能の強化に関する 要望書

～中部地域の基幹産業の競争力強化に向けて～



平成26年11月

名古屋商工会議所
名古屋港振興協会
名古屋港利用促進協議会
名古屋海運協会
名古屋港運協会
東海倉庫協会

要 望

日ごろは、名古屋港の発展のために、格別のご理解とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

名古屋港は、背後圏に我が国の基幹産業である自動車産業をはじめ、工作機械、航空・宇宙産業、鉄鋼、電気製品等の産業が集積しており、平成25年の総取扱貨物量は、2年連続で2億トンを突破し、12年連続で全国第1位の国際貿易港として中部地域の「モノづくり」に必要な不可欠なインフラであります。

特に、我が国の平成25年貿易収支が3年連続の赤字となる中、名古屋港においては、貿易黒字が約6兆円と16年連続で日本一を記録しておりますが、その内の約5割を占めている完成自動車輸出は、**約147万台で35年連続日本一**であり、**名古屋港は日本を代表する完成自動車の輸出拠点**となっております。

一方、名古屋港における完成自動車の重要な輸出拠点の一つである金城ふ頭においては、昨今の自動車輸出を取り巻く状況を受けた課題も浮かび上がっているところであり、更なる機能強化が必要となっております。

具体的には、物流コストの低減のため世界的にも自動車運搬船の大型化が進んでいますが、金城ふ頭においては、それらの**船が満載で着岸できる水深の岸壁**がないため、海外からの積み替え輸送も含め、効率的な完成自動車の輸出ができない状況にあることから、早急な対応が必要です。

また、用地不足等からモータープールが分散・点在し、横持ち費用の発生や維持管理コストの増大、非効率な荷捌きを余儀なくされていることから、その**集約・拠点化**を進めることが必要です。

さらに、南海トラフ巨大地震などが想定される中、このような災害時において、名古屋港から輸出を継続できないことは、中部地域の経済や産業に多大な影響を与えるため、絶対に避けなければならない、**災害時において物流機能を維持していくための港湾機能の確保**も重要です。

以上の課題を踏まえ、金城ふ頭における港湾機能の強化を早急に進めていただくことにより、中部地域に立地する自動車産業の更なる競争力強化が図られ、地域経済の活性化にも大いに貢献できるものと考えております。

つきましては、我が国産業活動に大きく貢献する港湾の必要予算を確保していただき、中部地域の基幹産業である自動車産業の物流効率化に必要な『**金城ふ頭の完成自動車取扱機能の強化**』について、格別のご配慮を賜りますようお願い申し上げます。

平成26年11月

名古屋商工会議所
会頭 岡谷篤

名古屋海運協会
会長 小澤敏也

名古屋港振興協会
会長 藤森利雄

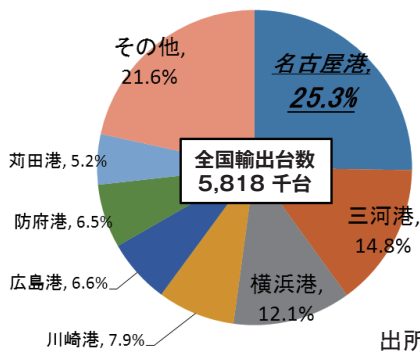
名古屋港運協会
会長 後藤正三

名古屋港利用促進協議会
会長 高橋治朗

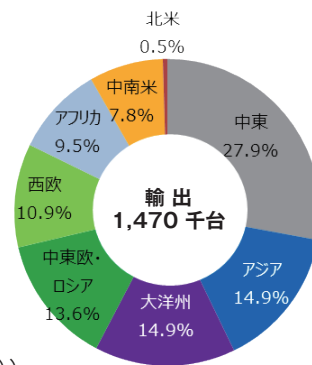
東海倉庫協会
会長 白石好孝

～名古屋港は日本を代表する完成自動車の輸出拠点～

港別完成自動車輸出台数割合



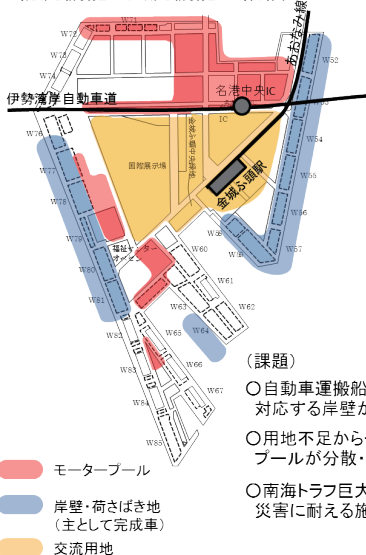
名古屋港における相手別完成自動車輸出台数割合



出所：財務省貿易統計(2013(H25))

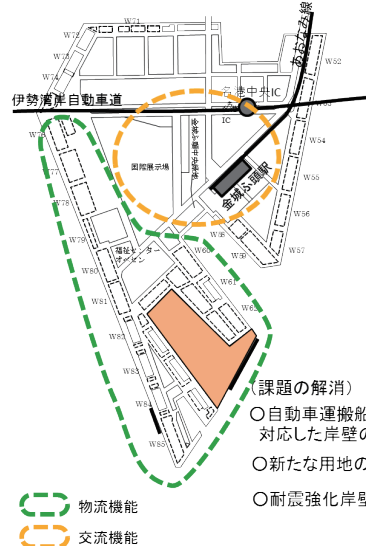
～金城ふ頭の完成自動車取扱機能の課題～

【現在】
物流機能と交流機能が輻輳



- (課題)
- 自動車運搬船の大型化に対応する岸壁がない
 - 用地不足からモータープールが分散・点在
 - 南海トラフ巨大地震などの災害に耐える施設がない

【再編後】
物流機能と交流機能のすみ分けを実現



- 課題の解消
- 自動車運搬船の大型化に対応した岸壁の確保
 - 新たな用地の確保
 - 耐震強化岸壁の確保